



KELAB JEPUN KUALA LUMPUR
THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR (PPM 0041425111963)
NO.2, JALAN 1/86, OFF JALAN TAMAN SEPUTEH, 58000 KUALA LUMPUR.
TEL: 03-2274 2274 FAX: 03-2274 3584 Email: office@jckl.org.my

第 60 回 K L日本人会年次総会 議事録（案）

開催日時：2024 年 6 月 22 日（土）午前 10 時 30 分～11 時 50 分

場所：KL 日本人会 第 1 ホール

出席者：A-0746 (0184) 浅井、A-0747 穴田、E-0151 江間、F-0157 藤井、F-0615 (0022) 藤原、
G-0087 後藤、H-1247 (0006) 星合、H-1249 (0064) 平田、H-1266 平垣内、
H-1277 (0068) 細川、H-1315 林田、I-1349 池田、K-2581 加悦、K-2620 (0914) 神林、
K-2639 (0164) 柏原、K-2641 小林、K-2655 加藤、K-2661 (0001) 狩俣、K-2688 風間、
K-2737 河村、K-2738 門上、K-2739 小池、K-2742 長嶺、K-2743 北川、K-2745 (0930) 桑川、
K-2580 葛西、M-1007 万代、M-1338 森田、M-1840 (0754) 前田、M-1859 森田、
M-1890 (0042) 森本、M-1927 (0024) 牧野、M-1931 松田、M-1935 (0005) 奥田、
M-1936 (0040) 松井、N-1409 (0916) 長野、N-1436 (0031) 中林(徹)、N-1438 (0026) 鳴釜、
N-1439 (0906) 中林(透)、N-1464 野沢、O-0989 岡本、O-1167 (0866) 岡部、O-1279 小川、
O-1307 大橋、O-1310 (0002) 大澤、O-1320 大石、S-1172 杉山、S-2135 (0053) 莊司、
S-2170 佐藤、S-2177 関野、S-2178 宗、S-2184 (0370) 菅原、S-2212 嶋田、S-2213 瀬戸、
S-2215 (0118) 塩尻、T-1888 高橋、T-1890 田中、T-1913 富田、T-1920 土谷、T-1921 田上、
T-1936 (0801) 高野、Y-1249 山本、Y-1320 柳井、Y-1386 山田(元)、Y-1436 山田(啓)、
Y-1439 (0013) 安光、Y-1445 山田(順)、Y-1453 矢野、Y-1454 山田(伸)、Y-1455 矢島

以上、参加者 70 名（議決権：95）（敬称略・順不同）

※オブザーバー：かとれあ会 後藤副会長（1 名）

■ 定足数の確認／開会 (柳井事務局長)

開会に際し定足数の確認を行い、10 時 30 分定刻の時点で、全体の総議決権数は出席者と委任状合わせて 306 であり、会則 7 条 2 項(a)に基づき本総会は適正に成立したとして開会が宣言された。

開催時の出席者（議決権数）は、理事の最大定員（29 名）の 2 倍以上にあたる 70 名（議決権数 95）。開会までに事務局で受け付けた有効な委任/議決権の数は 211（議長に委任 211 通、出席会員に委任無し）であった。（最終的に確定した出席者数 70 名（議決権数 95）、委任含む議決権総数 306）

■ 議長の選出 (柳井事務局長)

会則 9 条（a）に従い、星合会長代行が本総会の議長に選出された。

(1) 第 59 回年次総会議事録案の審査 (星合会長代行)

会員の皆様へ 2024 年 5 月 24 日（総会案内時）に E-mail にて送付された議事録について、審査が行われた。

第 59 回年次総会議事録案は、異議なく原案通り承認された。

(2) 2023 年度事業報告及び会員数推移報告

① 2023 年度事業報告（要旨） (星合会長代行)

星合会長代行より各委員会の 2023 年度事業の総括報告がなされた。その概要は次の通り。

1. 総務委員会

会長、副会長、各委員長、顧問で構成した総務委員会を毎月理事会の 1 週間前に招集し（会議室及びオンライン会議）、委員会等からの様々な提案事項を検討・審議し、その結果を理事会へ報告または上程した。また、各委員会間にまたがるような日本人会の運営上の課題や中長期の各種課題に対して議論を行い、必要に応じ継続的に審議するようにした。規約関係及びセカンドホーム関係は特になし。

2. 企画広報委員会

①イベント

・JCKL60 周年記念式典を開催した。KL 日本人会の設立や運営にご協力、ご支援頂いた方々約 70 名をお招きし、各方面からご祝辞も頂戴した。厳かにまた和やかな式典となり、歴史の深さを改めて感じるとともに次の 10 年につながる会となった。

・秋の味覚を楽しむ会とクリスマス会を例年通り開催した。両会とも参加した大勢の家族連れに楽しんで頂き盛大に開催する事ができた。これらイベントは日本人会の有効な広報活動として 24 年度も継続して開催することを検討したい。また、小学校高学年や中学生を対象としたイベントについても新規に検討したい。

②会員関係

・新規入会者の集いは、4 回実施し、合計で 168 名（88 世帯）の参加があった。

③ニュースレター編集委員会

・毎月初旬にホームページへ掲載、E-mail にて会員へのお知らせを発信した。

今年度は対面にてボランティア編集員含むニュースレター編集会議を実施。毎号の特集内容、その時期にあったコンテンツを検討、決定した編集方針に従い編集委員による取材活動、原稿作成を実施した。また寄稿については原稿の作成依頼を関係機関・諸氏に行い、編集・校正作業を実施した。今後とも是非多くの会員の皆様にご覧頂き、感想やご意見を頂けたら有難い。

3. 財務委員会

定例理事会にて月次財務報告を行った。

収支決算については、後ほど奥田委員長から報告させて頂く。

会員数はここ数年減少傾向にあり、今後も会員数の動向に留意しつつ、コスト管理を徹底する必要がある。会員の皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

4. クラブハウス委員会

当会館の定期的な点検、補修、メンテナンスを実施。今年度は斜面上の住居増築建設に関する調査発注、また会館東側斜面点検を行い、斜面の状態に問題はないとの結果を確認した。

クラブハウス将来計画小委員会による 2023 年度の積立金計上額については後ほど平田委員長よりご報告させて頂く。

5. 店舗委員会 特になし

6. 文化活動委員会

2024 年 3 月末現在、46 の部・同好会が活動。新規発足 2、廃止 1。イベント申請は 1 件。

日本語講座 8 回、料理教室 4 回、バティッククラス大人と子供合わせて 5 回実施。

7. スポーツ活動委員会

2024 年 3 月末現在、20 の部・同好会が活動。

新規発足・廃止ともになし。イベント申請 5 件、JSKL 施設利用 4 件

8. 学校委員会

①園児・児童・生徒数の推移

コロナ禍が終息し、児童・生徒数は回復傾向にはあるものの、未だに不安定な状態が継続しており注視が必要。園児数は、教員不足で 2023 年 4 月から約半年間、年少組を一時閉鎖したことから伸び悩んだ。

2022～2023 年度 園児・児童・生徒数の推移

年 月	幼稚部	小学部	中学部	合 計
2022 年 4 月	38	346	89	473
2023 年 3 月	63	395	91	549
2023 年 4 月	43	371	110	524
2024 年 3 月	56	373	106	535

②学校教育目標と教育の重点

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症が終息し、再び正常な状態の中で従来通り学校教育目標である「たくましいからだ、ゆたかな心、優れた知性と国際性を備えた児童・生徒の育成」に則り、魅力ある学校を目指して教育活動を行うことができた。「ICT 教育の充実」については、昨年度から中学部で活用して

いた教育機器クロムブックを小学部へと活用の範囲を広げ、全学年において ICT 機器を活用した授業実践が図れた。「英語教育の充実」については、昨年同様ローカル校との国際交流会を全学年で行った。

③2023 年度（令和 5 年度）予算・決算・学校一般会計

小中学部はコロナ禍が終息したものの、児童生徒数の回復には時間が掛かっている一方で光熱費の高騰は続くという厳しい環境となった。授業料を改訂して収入確保を図ったが、収支は予算通り若干の赤字で着地した。幼稚部は 11 月から年少組を再開できた事は良かったが、年度途中における園児数急回復は難しい一方、必要な教員 1 名の採用を行った為、今期の収支は 7 千リンギの赤字となった。

生徒数の現状に即した最適経営を行う事で来年度以降は経営を黒字に戻す。

学校施設に付随する各種設備等の調達・保守・維持を扱っている学校維持会計については、収入は概ね予算通りだったが、支出は、春休み実施の大規模工事の請求が 4 月にずれ込んだこと等から予算消化が少々遅れた。遅れている各種工事は次年度 1 学期に完了予定。

新校舎会計は、学校の校舎、施設等の固定資産管理と現スパン校舎建設から 50 年後（2042 年）の校舎建替えの為に資金積み立てを目的として運営している。今年度は 2021 年末より開始した校舎改修工事が完了した。

④学校経営

2023 年は近年の人件費や物価の大幅な上昇に加えて電気料金等のインフラコストが高騰し大きな経営圧迫要因となったが、小中学部は適切な収入を確保する事により概ね安定経営が図れた。小中学部生徒、幼稚部園児の数は今後緩やかに回復が見込まれるが、生徒数・園児数・教員数のバランスが取れた最適経営を図っていくと共に、老朽化が進む設備インフラへの対応を継続していく。学校運営体制についても、外部専門家のご支援を頂きながら強化を図って参りたい。関係者の皆様の引き続きのご理解とご協力をお願いしたい。

9. 教育施設管理委員会

帝京マレーシアと会館使用に関して 2024 年 1 月～12 月分の覚書を更新。KL 日本人幼稚園の家賃を増額した上で 3 年契約。

10. 福利厚生委員会

はぐくみ会は計 13 回、出産準備教室は計 3 回、オンライン無料健康相談は 11 回実施した。

ボランティアで実施して頂いているバトよしみ医師をはじめサポート頂いた方々にあらためて心から感謝申し上げたい。

11. 日本人墓地維持管理委員会

秋季慰霊祭、春季慰霊祭ともに広島県呉市、浄土寺副住職、良輝和尚の先導により実施。

2023 年 6 月に永岡文部科学大臣、10 月に宮下農林水産大臣、11 月岸田総理大臣の日本人墓地訪問があった。

12. IT システム委員会

2024 年 1 月に新会員システムの稼働開始。登録情報の変更や講座申込、会費の支払い等がオンラインで行なうことが可能となった。

13. 盆踊り実行委員会

2023 年 7 月 22 日（土）19:00 より Kompleks Sukan Negara Shah Alam にて、第 47 回盆踊り大会を開催。来場者数推定 4 万人。大きな事故などなく成功裏に終了した。例年に倣い、実行委員会を組織し、警備会社も起用して警備強化、安全対策を行った。ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

14. バザー実行委員会

婦人部かとれあ会創立 50 周年。2023 年 11 月 5 日（日）第 51 回チャリティバザーを Eastin Hotel にて開催した。当日は来場者約 1,200 名（関係者ボランティア含む）バザー当日売上げ収益と皆様からの現金ご寄付から約 9 万 7 千 5 百リンギを 12 ヶ所の福祉施設に寄付する提案を JCKL 慈善基金に対し行った。ご協力いただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。

15. 新年会実行委員会

2024 年 1 月 13 日に第 29 回新年会を会館にて開催、約 1,200 名の参加者があった。ライオンダンス、JSKL 園児及び部同好会の発表、和太鼓演奏が行われた。子供たちの楽しめるコーナーも含めて盛会となったが、事故・怪我無く、無事終了した。ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

16. 海外安全関係

コロナ以前に戻りつつある国際的な人の往来に伴う安全対策等について情報提供を行った。

17. 婦人部

①定期的なボランティア訪問支援活動

地元への社会貢献としてかとれあ会が長年にわたりボランティア支援活動を行っている二つの福祉施設、ブキナス身障者施設及び PJ スパスティックセンター音楽セラピーに対する活動を 2023 年度も実施。

②慈善活動・行事関連

寄付先福祉施設との交流として寄付先福祉施設 7 箇所へ訪問。2 箇所へバーチャル訪問（オンライン）。

③チャリティバザー関連

バザー活動の一環として、バザーサポーター／手芸品製作チームの皆さんと連携して活動。11 月 5 日 Eastin Hotel にて第 51 回 KL 日本人会チャリティバザー 2023 を開催。3 月 8 日 バザー収益金ドネーション贈呈式を行い、マレーシアの 12 福祉施設に総額 9 万 7 千 5 百リンギを寄付。

④日本人会関係イベントに協力

1 月 KL 日本人会新年会、3 月と 9 月春と秋の慰霊祭、7 月盆踊り大会をサポート。隔月開催の日本人会新規入会者集いにはスピーカーとして参加。

⑤日本人学校 PTA との交流

かとれあ会役員、バザーサポーター、PTA 役員の選出に際し、連携。

ドネーション贈呈式での福祉施設の方々の嬉しそうな笑顔を見て、かとれあ会の社会貢献活動は欠かせない活動であると感じた。そして改めて 51 年の長きに渡りチャリティバザー活動を持続してきた尊さを思い、日本人会に於けるかとれあ会は福祉のみならず日馬友好へ大きく貢献しているのだという思いを強くした。これからも社会福祉と日馬友好に貢献し続けて頂きたい。

18. 全マレーシア日本人会

第 44 回マレーシア全日本人会連絡会が、2023 年 10 月 6 日（金）KL 日本人会会館にて開催された。12 か所の日本人会のうち、今回は 6 か所の代表が参加した。同時に大使館主催で第 42 回安全対策協議会が開催され、外務省海外安全ホームページから、感染危険情報等、及びマレーシアの安全情報が共有された。

② 会員数推移報告

（柳井事務局長）

配布資料参照。

法人会員：23 年 3 月末時点の 276 社から 24 年 3 月末 269 社へと、年間で 7 社、2.5%の減少。

その前の年度の 6 社減とほぼ同じ数の減少。

個人会員：23 年 3 月末時点で 1,256 世帯（家族含む 2,992 名）から 24 年 3 月末時点で 1,244 世帯（家族含む 2,976 名）となり、個人会員数は 12 世帯、0.9%の減少、家族を含めると 16 名の減少。個人会員数 12 世帯の減少については前年度の 28 世帯減と比べ半分以上の減少幅。

個人会員のうち MM2H：194 世帯から 193 世帯へと 1 世帯、0.5%の減少。家族会員含めると、年間で 11 名の減少。

賛助会員：293 世帯から 299 世帯へと年間で 6 世帯、2.0%の増加。

学生会員：16 名から 11 名へと 5 名減少。

会員種類	2023 年 3 月末会員数	2024 年 3 月末会員数	年間増減
法人会員	276 社	269 社	-7 社
個人会員 [内 MM2H]	1,256 名 (2,992 名) [194 名 (342 名)]	1,244 名 (2,976 名) [193 名 (331 名)]	-12 (-16) [-1 (-11)]
賛助会員	293 名 (579 名)	299 名 (585 名)	+6 (+6)
学生会員	16 名	11 名	-5

（ ）内は家族会員も含めた人数

総括：

昨年度も法人会員と個人会員の数は減少したが、減少幅はここ数年の傾向としてだいぶ緩やかになってきている。一方、賛助会員数は昨年度から2年連続で増加に転じている。

原因について（会員種別ごと）：法人会員の減少については、依然事業の縮小や撤退、経費節減、或いは代表者の現地人化等が進んでいることによるものと思われる。また、個人会員については、長期的な減少傾向は変わっていないが、コロナの影響による急な増減も一段落してきていると考えられる。

MM2Hの減少については、当地では2021年10月以来、新規MM2Hビザの発給条件の厳格化、更に度重なる見直しが実施されたことによって、新たにMM2Hビザを取得した方が大幅に減少したこと、またMM2Hビザ申請者が急増した2011年の東日本大震災後の数年間から既に10年を経過したことで、ここ数年は本帰国者が増えてMM2H資格の会員数が大幅に減少したが、これも一段落した観がある。但し、新たにMM2Hビザを取得した方、或いはこれから申請しようとしている方が減少しており、MM2H資格の会員数は今後も減少して行くものと見ています。賛助会員の増加については、昨年度に引き続き、講座やサークル活動への参加者が増えていること、或いは会館内施設の利用によるものと考えます。

同ページの下の方の棒グラフは、白抜きが毎月の個人会員の入会数、黒塗りが出会数を表している。昨年度の傾向は、新規赴任者の増加によって4月と5月に新規入会者が増え、本帰国者の増加によって3月には退会者が増えるという、コロナ前の傾向にほぼ戻った様に見受けられる。

次ページの折れ線グラフは、会員数の年毎の変化を表しており、一番上のグラフが各年度3月末時点の個人会員数。グラフから分かる通り、1996年のピークに次いで2015年が2番目のピークとなっている。2020年度と2021年度はコロナの影響で大幅に会員数が減少したが、2022年度以降は減少が緩やかになっている。また、上から2番目のグラフはKL日本人学校の年度末の生徒数を示しており、2022年度以降はほぼ横這いの状況となっている。これはコロナ禍が一段落し帯同赴任者数が回復して来たことによって家族会員数が2022年度からほぼ横ばいとなっていることを表していると言える。

今後数年については、長期的な傾向として個人会員の減少は継続するものの、その具合は穏やかな状況が続くものと予測している。

以上のとおり説明が行われた。

（3）2023年度収支決算案の件（審議）及び監査報告

①決算案の件（当日配布資料参照、千リンギ単位で四捨五入して説明）

（奥田財務委員長）

【事業収入】

2023年度の事業収入合計は395万3千リンギとなり、予算計画比99%、金額にして約2万リンギ予算を下回る結果となった。

#3000番台：会費関係：約2万リンギ予算を上回る結果となった。会費収入の減少幅が予算の前提条件より小さかったことによるもの。

#3100番台：店舗や教育テナントからの収入は予定通り。

#3200番台：その他収入：予算を約4千リンギ上回る結果。

#3300番台：会員活動等からの収入：予算を4万3千リンギ下回る結果。予算未達の主な要因は昨年7月に開催した盆踊りの収入が予算より少なかったこと、日本語教室の収入が未達であったことによるもの。盆踊りへの寄付金にせよ、日本語教室への生徒派遣にせよ、法人会員企業に頼っている部分が大きく、時代の変遷とともに寄付金、派遣生徒数が集まり難くなっている状況を示している。

【事業支出】

事業支出の合計は431万リンギで予算に対して10万6千リンギ少ない結果となった。この結果、会員事業収支は357千リンギの赤字だったが、これは予算比8万7千リンギの良化となった。

#5000番台：事務局運営に関わる費用：全体として節約が出来、予算比8千リンギの削減となった。

#5100番台：水道光熱費：水道代の予算が前年度の実績を元に立てていたが、前年度はメーターの不具合で請求額が著しく少なかった為に過小予算となっており、これによって水道光熱費の括りでは計画比1万6千リンギの予算超過となった。

#5300番台：労務費：従業員の給与・福利厚生費の下振れは、退職者の穴埋めの新規採用が間に合っていないことが要因で、計画比4万6千の削減となった。

#5400 番台：購読費・専門家費用：前年度の実績が JCKL 慈善基金の免税期間延長に関する会計事務所費用を含んでいたことで、予算が若干多めになっていたこともあり、この括りでは予算比約 1 万リンギの削減となった。

#6000 番台：会員の活動に関する費用：盆踊りの費用や会議費等一部予算を超過した項目もあったが、他は全体的に節約することが出来、予算比 1 万 6 千リンギの削減となった。

#7000 番台：活動費用の内、墓地費用：計画に入れていた慰霊堂のメンテナンス費用が計画を下回ったことで、この括りで 1 万 2 千リンギの削減となった。

#8000 番台：会館関係費用：クラブハウスの補修費は予算を上回ったものの、改装費が少なかったこと、また IT プロジェクトの開発費用（残金 50%の支払い）が予算より少なく済んだことで予算比 2 万 5 千リンギの削減となった。

【会員事業外収支】

#3000 番台：事業外収入：定期預金と MMD の利息収入は余剰資金の効率的な運用で約 4 万 4 千リンギ計画を上回る実績となった。雑益は、水道光熱費の内、テナントの使用分をテナント各社に請求し、入金した分で、電気代の上昇に伴い、テナントからの入金も増えている。

#9000 番台：所得税：予算では 2022 年度の確定分のみ計上していたところ、2023 年度分の予納金 1 万 6 千リンギと、更に 2024 年度分の予納金 3 万 4 千リンギ支払いが発生したことから、約 5 万リンギの予算超過となった。従って利息収支と合わせた事業外収支は、予算比 5 千リンギのマイナスとなった。

【経常収支】

年度累計実績で 5 万リンギのマイナスとなったが、予算比では 8 万 2 千リンギの良化となった。

【財務収支】

新規入会者数が予算前提よりも少なかったこと、一方退会者数は予算前提よりも若干多かったことから、預かり保証金の出入金の差額が約 2 万リンギのマイナスとなり、その他費目の良化分を加味しても、予算比 1 万 7 千リンギのマイナスとなった。

【総合収支】

年度の現金収支実績が 3 万 7 千リンギのマイナスとなったが、予算に対しては 6 万 5 千リンギの上振れであった。現金収支全体としては、前年度と比較して会員数は 1%程度減少したものの、会費関係収入とテナント家賃収入は若干予算を過達。一方盆踊りや日本語教室などの活動収入が予算を下回ったことで収入全体では約 2 万リンギの予算未達となった。

費用面では水道光熱費が過小予算で計画を上回ったものの、事務局運営費、労務費等で費用削減が出来たこと、クラブハウスの補修・改装費用や IT プロジェクト関係の費用等でコストセーブ出来たこと等で予算に比べて出費が減少したが、前述の所得税の支払い額が確定分・予納分併せて予算比 5 万リンギの超過となったことで、現金総合収支は予算計画比 6 万 5 千リンギ良化の 3 万 7 千リンギのマイナスとなった。この結果、期末現金残高としては 874 万リンギを次年度に繰越す結果となった。

【損益計算書】

総収益は 441 万 9 千リンギ。償却前費用合計として 414 万 8 千リンギがあり、そこから減価償却費用と税金を差し引いた税引き後当期利益は 19 万 6 千リンギのマイナスという結果となった。

【貸借対照表】

資産の部：2024 年 3 月末の総資産は、1,641 万 1 千リンギと、前年度末比 22 万 9 千リンギ減少した。その内、流動資産は前年比 8 万リンギ増加し 906 万 6 千リンギ、土地建物、機械器具、備品等の固定資産は、本年 2 月末に完了した IT プロジェクトの費用の資産繰入額 39 万 9 千リンギを含めて前年比 30 万 9 千リンギ減少の 734 万 6 千リンギとなった。尚、この IT プロジェクト費用は今後 5 年間で繰り延べ償却する。

負債の部：流動負債（会員預かり保証金、前受金、事務局員の賞与引当金、SST の仮受等）と固定負債である退職引当金を合算して、負債の部の合計は前年より 3 万 4 千リンギ減少して 120 万 4 千リンギとなった。資本の部（会員勘定）は、新会館建設積立金を合わせて、前年比 19 万 6 千リンギ減の 1,520 万 7 千リンギとなった。

総括：

2023 年度の現金収支は長期勤務者の退職金や IT プロジェクトの残高支払い等を見込んで、赤字予算でスタートしたが、会費収入やテナント家賃など収入が安定、加えて各種経費の節約等で、赤字額を縮小する

ことが出来た。一方、発生主義に基づく損益計算書では、現金の出入りを伴わない減価償却費や引当金の計上によって現金収支より若干多めの赤字決算となっているが、貸借対照表の資本の部をご覧頂くとお分かりの通り、当会は現在、新会館建設積立金を除いても 11.6 百万リングの繰越剰余金を保有しており、財務状況としては十分に健全性が保たれていると考える。

②監査報告

(小林監事)

2024 年 5 月 1 日に前田監事および小林監事の 2 名によって KL 日本人会一般会計の監査が行われ、「監査の結果、いずれの会計も財務諸表は適正性を損なうような重要な不正・誤謬は認められなかった」との報告があった。

2023 年決算については、異議なく、承認された。

(4) 新会館建設積立金報告

(平田クラブハウス将来計画小委員長)

2024 年 3 月 31 日終了事業年度の決算では、約 3 万 6 千リングの現金収支のマイナスとなったことから、クラブハウス将来計画小委員会より理事会に対し、2024 年度の新会館建設積立金は新たな積み立てを行わないことを提案し、理事会で承認されたことが報告された。

この結果、新会館建設積立金の残高は、過年度の利息を含み、約 378 万 7 千リングとなっている。

(5) JCKL 慈善基金活動報告

(奥田財務委員長)

・2023 年 11 月 5 日に Eastin Hotel にて第 51 回のチャリティバザーを KL 日本人会婦人部かとれあ会が主担当となって開催した。このバザーから得た収益については 2024 年 3 月 8 日にドネーション贈呈式を KL 日本人会会館第 1 ホールで開催し、総額 9 万 7 千 5 百リングを 12 箇所の福祉施設に寄付した。寄付の具体的な内容については配布資料⑤-1 をご参照。

・財務報告：2023 年 12 月 31 日終了事業年度の決算財務諸表については、配布資料⑤-2~4（現金収支報告書、損益計算書、貸借対照表）をご参照。現金収支：慈善事業収入としてチャリティバザーの収入とその他活動の収入を合わせた慈善事業総収入は、15 万 6 千リングであった。慈善事業総支出：12 万 8 千リングを差引くと、慈善事業収支として、2 万 7 千リングのプラスとなった。

事業外収支、財務収支を加味し、年間の総合収支は 2 万 7 千リングの黒字となり、その結果期末の JCKL 慈善基金の現預金残高は 17 万 9 千リングとなった。尚、先ほど活動報告のところで申し上げた通り、本年 3 月にこの残高から 9 万 7 千 5 百リングの寄付を実施している。損益計算書、貸借対照表は配布資料ご参照。財務的には、慈善基金は特段問題なく推移している。

・所得税免税措置の延長申請の件について、2021 年に免税措置延長の申請手続きを行い、2022 年 1 月 1 日から 2026 年 12 月 31 日までの 5 年間の免税措置の延長が許可されている。

(6) 2024 年度予算案の件

(奥田財務委員長)

当日配布資料参照。以下の通り説明が行われた。

【事業収入】

#3000 番台：会費関係収入：個人会員数の減少は若干なだらかになっており、昨年度もその前の年に比べて約 1%の減少であったことから、今年度の会費関係の収入は前年比 1%減を見込んでいる。この結果、会員関係の収入は前年実績 250 万リングに対し今年度予算では 248 万 5 千リングを見込んでいる。

#3100 番台：テナント家賃収入：次の 2 点を除いて昨年通りの収益を見込んでいる。

#3116：日本人幼稚園家賃：今年度から毎月 1 千リング値上げすることで合意しており、年間で 1 万 2 千リングの増収となる。

#3117：帝京マレーシア家賃：移転先の改修費の分割負担が終了した為に、昨年度比で 6 千リングの減収となる。

#3300 番台：その他会員活動からの収入

7 月 20 日開催予定の盆踊り関係の収入が、ケータリング用のテント数の減少に伴い減収と会員事業収入全体としては表の一番下にあるに、前年実績比約 1%減の 393 万 2 千リングを見込んでいる。

【事業支出】

#5000 番台：事務局運営費用：
#5003 会館の老朽化に伴い、メンテナンス費用の増加を見込む。特にシロアリ対策は喫緊の課題。
#5008 コピー機の入替え時期であり、リース料 2 万 4 千リング/年を計上。
#5010 開発業者への年間メンテナンス費用 1 万 6 千リングは今期から発生。
#5012 今期はイベント担当 1 名の採用費用を見込む。もし不足の場合には予備費を流用予定。
#5100 番台：水道光熱費：水道代は昨年度が過小予算だった為、今年度は昨年実績をベースにしている。
#5300 労務費：昨年は永年勤続者の退職金支払いで一時的な増額があったが、今期は定昇分を見込んで昨年実績比▲2%と予想。
#6000 番台：活動費用
#6006 盆踊り大会：今年度起用する EO (Event Organizer) の費用約 1 万 5 千リングと会場使用料 4 万リングを織り込んでいる。
#9920 予備費：昨年度は当初 2 万リングの予算でスタートしたが、職員採用事務費が不足となった為、期中に 1 万 8 千リングを #5012 職員採用事務費に振替えている。今期も同費目で不足があれば、期中での振替えをする可能性がある。
会員事業支出の予算計画値として今年度は 442 万 1 千リングとなり、前年度実績と比較すると 11 万リングの支出の増加を予測している。
結果、会員事業収支は 48 万 9 千リングのマイナス。定期預金利息や雑益、所得税等の事業外収支を加えた経常収支が 11 万 7 千リングのマイナス、預かり保証金等の財務収支を加えた総合収支は 11 万 3 千リングのマイナスとなる予算計画となっている。
従い 2025 年 3 月末の現預金残高としては、前期末の繰越約 874 万リングから 11 万 3 千リング減少し、862 万 8 千リングとなる見込み。

総括：
収入面では会費関係の収入減、盆踊りのケータリングテントの収入減等で前年比 1%の収入減。一方運営費については盆踊り等、各種イベント開催経費の増加、クラブハウスのメンテナンス費用の増加等を見込み、会員事業支出は前年比約 11 万リングの増加となる。これに事業外収支、財務収支を加味すると、前年実績比で約 7 万 6 千リングの総合収支の悪化となり、今期の現金収支の予算計画は約 11 万 3 千リングの赤字予測となっている。

尚、盆踊り大会の収支については、現時点では 6 万 9 千リングのマイナスとなっているが、収益改善のポイントとしては以下の 4 点と考えている。

- 収益面： ・寄付金が予定通り集まるかどうか。（計画では 10 万リングを見込む）
・MOTAC（観光・文化省）に申請している支援金が貰えるかどうか。（申請額は 7 万 5 千リング）
・EO に開発を依頼している入場登録システムによる寄付金が幾ら集まるか。
費用面： ・会場使用料が従来通り免除して貰えるかどうか。（予算では 4 万リング織込み）

については、引き続き日々の運営コストの節約に努め、赤字縮小に取り組んで参りたいと考えており、会員の皆様のご理解をお願い申し上げます。

2024 年度予算案は、質問・異議なく、原案の通り承認された。

- (7) 2024 年度日本人会理事選挙結果報告 (小林選挙管理委員長)
会則・選挙に関する規則に従って選出理事候補の推薦を受け付け、既に会員に通知した通り、法人会員登録名義人から理事 11 名、個人会員から理事 4 名が当選したことが報告された。（会員番号順、敬称略）

(i) 法人会員登録名義人からの理事（定員 11 名）

①	大澤 理一郎	Ajinomoto (Malaysia) Bhd
②	奥田 元秀	MUFG Bank (Malaysia) Berhad
③	星合 大	Itochu Malaysia Sdn Bhd

④	藤原 毅	Marubeni Malaysia Sdn Bhd
⑤	牧野 孝祐	Mitsubishi Corporation
⑥	鳴釜 宏充	Mitsui & Co. (Malaysia) Sdn Bhd
⑦	松井 智嗣	Sumitomo Corporation Malaysia Sdn Bhd
⑧	森本 昌明	Tokio Marine Insurans (M) Bhd
⑨	細川 純治	Panasonic Malaysia Sdn Bhd
⑩	塩尻 篤秀	Sumitomo Mitsui Banking Corporation Malaysia Bhd
⑪	中林 透	Hong Leong Assurance Bhd

(ii)個人会員からの理事（定員 4 名）

①	藤井 純一
②	加藤 誠
③	松尾 義裕
④	杉山 雄一

- (8) 2024 年度新会長選出報告 （藤原総務委員長）
 選出理事 15 名により構成される第 1 回暫定理事会（5 月 21 日開催）にて新会長を互選し、
 星合 大（ほしあい だい）氏 Itochu Malaysia Sdn Bhd が全会一致で選出されたことが報告された。

- (9) 2024 年度任命理事氏名の報告 （星合新会長）
 第 2 回暫定理事会にて、次の 14 名が任命理事に選出されたことが報告された。（敬称略・順不同）

(i) 個人会員又は法人会員登録名義人の中から

1	浅井 隆裕	Aeon Co (M) Bhd	法人登録名義人
2	小田 竜介	Hakuhodo (M) Sdn Bhd	法人登録名義人
3	柏原 貞俊	UMW Toyota Motor Sdn Bhd	法人登録名義人
4	神林 義之	Likearisingsun Sdn Bhd	法人登録名義人
5	桑川 勇樹	Mizuho Bank (Malaysia) Bhd	法人登録名義人
6	莊司 憲一	Toyota Tsusho (Malaysia) Sdn Bhd	法人登録名義人
7	菅原 美奈子	Japan International Cooperation Agency (JICA)	法人登録名義人
8	高野 光一	JETRO Kuala Lumpur	法人登録名義人
9	中島 裕美	Hitachi Sunway Information Systems Sdn Bhd	法人登録名義人
10	中林 徹	Sojitz (Malaysia) Sdn Bhd	法人登録名義人
11	平田 順久	Sato Kogyo (M) Sdn Bhd	法人登録名義人
12	向 和史	Eneos Corporation	法人登録名義人
13	安光 晋作	Japan Airlines Co Ltd	法人登録名義人

(ii) 在マレーシア日本国大使館から

1	山田 元一郎	Embassy of Japan	個人会員
---	--------	------------------	------

(10) 星合新会長の挨拶（要旨）

皆様、こんにちは。この度、日本人会の新会長に就任いたしました、星合と申します。2021 年 4 月以降マレーシアに在勤しており、2021 年度婦人部担当理事、2022 年度盆踊り実行委員長 兼 婦人部担当理事、2023 年度副会長 兼 学校運営理事会理事長を務め、この度前任の白石会長の後任として会長を務めさせて頂く事になりました。どうぞよろしくお願い致します。

はじめに、日本人会の運営にあたりまして、多大なるご協力を頂いております理事、顧問、監事、管財人、そして在マレーシア日本国大使館の皆様をはじめとする多くの関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

日本人会は「会員相互の親睦と互助、マレーシアと日本の友好と親善の促進」を会の目的に掲げ、これまで多くの活動を行って参りました。今後もこの会の目的に則り、在留邦人の皆様の心のよりどころとなり、もっと活用し

たくなるような魅力的な日本人会を目指して運営に努めて参ります。

昨年度 2023 年度は、日本人会にとって 60 周年という大きな節目の年でした。記念の年にふさわしく、JCKL60 周年記念式典をはじめ、新年会、盆踊り、チャリティバザーといった主要なイベントが盛大に開催され、多くの皆様にご参加頂きました。2024 年度も各実行委員会が準備に邁進しておりますので、会員の皆様も是非楽しみにして下さい。また、イベントとは別に日本人会が担う役割として、クアラルンプール日本人学校の運営母体というものがあります。在留邦人の子女教育の良好な環境を整え、将来を担う大切な子供たちの健全な成長を後押しする重要な責任を、今日ここで改めて皆様にお伝えし、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

さて、毎年の会長挨拶でも触れられておりますように、時代の変遷やコロナ禍後の経済状況の変化により、日本人会の会員数やクアラルンプール日本人学校の生徒数が減少傾向にあります。さらに会員企業様からの寄付金の減少など、日本人会を取り巻く環境は依然として厳しく、運営基盤や財政基盤は盤石なものとは言えない状況が続いております。

このような厳しい環境下ではありますが、持続可能な経営に向けて、理事会及び事務局メンバーと連携しながら、全力で取り組んで参りますので、会員の皆様におかれましても、何卒ご理解とご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。皆様とともに、より良い日本人会を築いていけることを楽しみにしております。

(10) 質疑応答：特になし

■ 閉会の辞

(柳井事務局長)

以上